【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第７部門第３区分
【発行日】平成18年7月13日(2006.7.13)

【公表番号】特表2005-536080(P2005-536080A)
【公表日】平成17年11月24日(2005.11.24)
【年通号数】公開・登録公報2005-046
【出願番号】特願2004-510102(P2004-510102)
【国際特許分類】
Ｈ０３Ｄ　7/18　(2006.01)
Ｈ０３Ｈ　11/04　(2006.01)
Ｈ０４Ｂ　1/26　(2006.01)
Ｈ０４Ｎ　5/44　(2006.01)
【ＦＩ】
Ｈ０３Ｄ　7/18
Ｈ０３Ｈ　11/04　Ｊ
Ｈ０４Ｂ　1/26　Ｂ
Ｈ０４Ｂ　1/26　Ｊ
Ｈ０４Ｎ　5/44　Ｋ

【手続補正書】
【提出日】平成18年5月22日(2006.5.22)
【手続補正１】
【補正対象書類名】特許請求の範囲
【補正対象項目名】全文
【補正方法】変更
【補正の内容】
【特許請求の範囲】
【請求項１】
伝達関数を有する画像除去フィルタであって、
除去するための直角位相信号を受け、前記直角位相信号からの虚数成分を生成する第１の部分回路と、
除去するための同相信号を受け、前記同相信号からの実数成分を生成する第２の部分回路と、から成り、
前記伝達関数は、前記伝達関数の分母あるいは分子として前記虚数成分および前記実数成分を用いることを特徴とする画像除去フィルタ。
【請求項２】
前記フィルタは、前記分数伝達関数を生成する多重帰還ループ積分回路を有する請求項１に記載の画像除去フィルタ。
【請求項３】
前記伝達関数は、非再帰分子および再帰分母を、さらに、有する請求項１に記載の画像除去フィルタ。
【請求項４】
前記分子および前記分母は、多項式である請求項１に記載の画像除去フィルタ。
【請求項５】
前記分子の前記多項式の係数は、実数で因数分解される数である請求項４に記載の画像除去フィルタ。
【請求項６】
前記分子は少なくとも１つの実数から成り、前記分母は少なくとも１つの虚数から成る請求項１に記載の画像除去フィルタ。

【請求項７】
前記分子は少なくとも１つの虚数から成り、前記分母は少なくとも１つの実数から成る請求項１に記載の画像除去フィルタ。
【請求項８】
前記伝達関数の前記分子および前記分母は同じ符号を有し、ゼロから成る複数の因数に前記分子が因数分解できる請求項１に記載の画像除去フィルタ。
【請求項９】
２次画像除去ミキサを有する請求項１に記載の画像除去フィルタ。
【請求項１０】
前記２次画像除去ミキサは以下の伝達関数を有する請求項９に記載の画像除去フィルタ。
【数３】

$$A=\frac{1+j\times S1\times S2}{1+S1+S1\times S2}$$
$$=\frac{(1+Za)\times(1+Zb)}{(1+Sa)\times(1+Sb)}$$

ここで、
Ｓ１＝ｊｗＣ１Ｒ
Ｓ２＝ｊｗＣ２Ｒ
【請求項１１】
前記２次画像除去ミキサは分割電極伝達関数を有する請求項９に記載の画像除去フィルタ。
【請求項１２】
３次画像除去ミキサを有する請求項１に記載の画像除去フィルタ。
【請求項１３】
前記３次画像除去ミキサは以下の伝達関数を有する請求項１２に記載の画像除去フィルタ。
【数７】

$$A=\frac{1+j\times 3S-3S\times S-j\times 31\times S\times S/3}{1+3S+3S\times S+3S1\times S\times S/3}$$
$$=\frac{(1+Z)\times(1+Z)\times(1+Z)}{(1+S)\times(1+S)\times(1+S)}$$

ここで、
Ｓ＝ｊｗＣＲ
【請求項１４】
４次画像除去ミキサを有する請求項１３に記載の画像除去フィルタ。
【請求項１５】
前記４次画像除去ミキサは以下の伝達関数を有する請求項１３に記載の画像除去フィルタ。
【数９】

$$A=\frac{1+j4S-4S\times 1.5S-j4S\times 1.5S\times S/1.5+4S\times 1.5S\times S/1.5\times S/4}{1+4S+4S\times 1.5S+4S\times 1.5S\times S/1.5+4S\times 1.5S\times S/1.5\times S/4}$$
$$=\frac{(1+Z)\times(1+Z)\times(1+Z)(1+Z)}{(1+S)\times(1+S)\times(1+S)\times(1+S)}$$

ここで、

$$S = jwCR$$

【請求項１６】

複数のカスケード接続された相互コンダクタンス増幅器を有する請求項１に記載の画像除去フィルタ。